



令和4年度入学式を挙行了しました

4月4日(月)白子キャンパス講堂において、令和4年度入学式を行い、学部703名、大学院19名が新たな一歩を踏み出しました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、午前・午後の2部制で規模を縮小し、入学生と一部の教職員のみの参加とし、マスクを着用し、アルコール消毒を済ませ、式に臨みました。

豊田長康学長は、「医療・福祉のスペシャリストになるためには、必ず資格試験に合格していただく必要があります。毎日毎日が勝負であり、予習・復習をしっかりと行い、課題やレポートを着実にマスターすることが求められます。本学の教育の理念と5つの教育目標が目指すのは、高度な専門的知識や技能だけではなく、病者を思いやる暖かい心や高い倫理観を養い、社会に対する広い視野を持つような人財の育成です。本日入学された皆さん全員が、『知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリスト』に成長されることを期待しています」と式辞を述べました。

また、高木純一理事長は祝辞で「学ぶことを疎かにせず、資格試験のストレート合格を目指して1年次からしっかりと勉強に取り組んでください。皆さんは成人なのでから人に頼るばかりではなく、自分の将来への切符は自らの努力で勝ち取ってください。コロ



高木純一理事長



豊田長康学長



＜建学の精神＞
科学技術の進歩を真に
人類の福祉と健康の向上に役立たせる

＜教育の理念＞
知性と人間性を兼ね備えた
医療・福祉スペシャリストの育成

- ＜教育目標＞
- ① 高度な知識と技能を修得する
 - ② 幅広い教養を身につける
 - ③ 思いやりの心を育む
 - ④ 高い倫理観を持つ
 - ⑤ チーム医療に貢献する

ナは何れ終息しますが、日本には世界が経験したことのない超超高齢社会というもっと深刻な問題が待ち構えています。どうか皆さん、本学でしっかりと学び、日本の将来を支える、医療・福祉のスペシャリストになってください」と激励の言葉を贈りました。

午前の部では救急救命学科の今井颯杜さんが、「仲間と共に高め合い、医療・福祉スペシャリストへと成長するために努力を惜しまず、自らを向上させることに尽力します」、午後の部では薬学科の宮田朋奈さんが「日々研鑽と努力を重ね、これからの社会を担う医療・福祉スペシャリストへと成長するために努力します」と宣誓をしました。

＜庶務課＞

新学科「救急救命学科」の第1期生が入学

保健衛生学部 救急救命学科長 鈴木 哲司

救急救命学科が、2022年4月に開設されました。4月1日(金)には1期生の新入生学科別オリエンテーションが開催され、救急救命士を目指す4年間の大学生活が始まりました。

近年の頻発する大災害、超高齢社会における救急搬送件数の増加、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延によって災害・救急医療を取り巻く環境は激変しています。また、新型コロナウイルス感染症による重症患者数の増加によって病床数が不足、集中医療を専門とする医療専門職の人材不足が問題となっています。このような閉塞した医療の状況を改革するため、国は昨年(2021年)救急救命士法を改正して救急救命士の活動する場所の制限を解除し、その業務場所を「救急自動車内」から「救急外来」までに拡大し救急医療体制の基盤を強化しました。

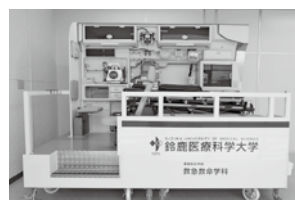
本学科の開設にあたって、救急・災害医療やNBCテロの現場、在宅での終末期医療で活躍できる新しい時代に対応できる救急救命士を養成するため実学教育を重視してその質向上を第一に考え、教育環境の整備・充実に大きな力を注ぎました。救急救命実習室には、救急車の車内をそのまま再現したカットモデルを2台設置。また、日産キャラバンの救急車1台の実車を配備しました。この救急車は三重県公安委員会から緊急自動車の指定を受け、有事には公道を緊急走行することが許されています。三重県内の大学で救急車を所有するのは、医学部を有する三重大と本学のみです。この救急車は、救急救命学科の実習教育で使用するのみならず要請があれば大規模災害発生時の災害現場への出動、マラソン大会や各種スポーツイベントへの救護にも活用できると思います。

多職種を目指す学生と協働しながら医療・福祉に関する領域を学び、社会に貢献できる優秀な救急救命士を輩出するための教育研究を推進してまいります。

皆様のご指導・ご協力をお願いします。



鈴鹿医療科学大学 救急車

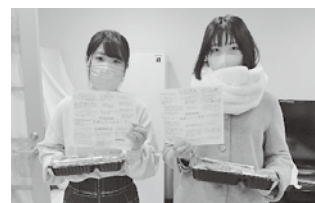


救急車内を再現したカットモデル

国家試験頑張って！食事会

1月25日(火)、毎年この時期に国家試験を目前に控えた4・6年生を激励する会として学生寮の寮生を対象に「国家試験頑張って！食事会」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、昨年度に引き続きお弁当及び応援メッセージの配布を行いました。

下級生からは「コロナ禍で大変なことが多いと思いますが、体調に気をつけて頑張ってください」とエールを送るコメントや体調を気遣うコメントが、4・6年生からは国家試験に対する抱負や下級生へのアドバイスが送られました。また、高木久代副学長や寮母さんからのコメントもあり、プレッシャーの日々を過ごす4・6年生の皆さんの励みになれば幸いです。



お弁当と応援メッセージを受けとる寮生

当日は44名の寮生がお弁当を受け取り、一人ひとり寮母さんから暖かい言葉をいただきました。学生の安全を考え、例年通りの食事会を開催することはできませんでしたが、このように学生寮では感染防止対策を十分行っただけで、学生寮生の交流を深めています。

今後も国家試験を受ける4・6年生をはじめ、勉学に励む学生寮生のサポートを十分に行っていきます。

＜学生課＞

学生相談室通信

学生相談室長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

新年度が始まり早いもので1か月が経とうとしています。

遅ればせながら、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。コロナ禍の中で始まった新しい生活は、大変なことも多いと思います。何かにチャレンジしようと思っても、感染の不安が過ぎて行動に移せないと感じている人もいるかもしれませんね。そして在学生の皆さんにとっては2年前の春から、期待とは違った形の大学生活に適應するのは大変だったことと思います。そんな中でも勉強やアルバイト、友達付き合いなど、楽しんだり悩んだりしながら大学生活を元気に送っている皆さんの逞しさに、いつも感心しています。

学生相談室では、コロナ禍の中にあっても、変わらず頑張る皆さんを応援するために、対面での相談の他にzoomや電話、メールでの相談を行っています。こころの問題だけでなく、学生生活上のちょっとした心配事などの相談も受け付けています。悩みと言うほどではないけれど、話し相手が欲しいなあという方も気軽に利用してください。



学生相談室
メールフォーム

受賞のご報告

臨床検査学専攻の荻津直通教授が臨床検査技師教育協議会永年精励賞を受賞

保健衛生学部 医療栄養学科 教授 熊取 厚志

令和3年度で退職された医療栄養学科臨床検査学専攻の荻津直通教授が、この3月に臨床検査技師教育協議会永年精励賞を受賞されました。私の母校でもある名古屋保健衛生大学（現 藤田医科大学）での42年間と本学での6年間を合わせた48年間、即ち半世紀近く一貫して臨床検査技師教育に従事された功績が称えられました。またその間、愛知県臨床衛生検査技師会の会長を8年間努められており、教育現場と臨床現場の橋渡しにも大きく貢献されました。

私の大学時代の恩師でもある荻津先生には、臨床化学研究室での卒業研究で特にお世話になりました。荻津先生は、当時はまだ生化学系の研究室では一般的ではなかったPCをいち早く教育・研究に活用されておられ、PCを用いたデータ解析法やプレゼンテーション資料作成法などを荻津節で丁寧に教えて頂きました。また、ご専門分野の教育・



受賞した荻津教授（左）と熊取教授

研究に加えて、将来の臨床検査技師教育を見据えて教育技法の改革に取り組んでおられました。本学赴任後にはその取り組みを加速させ、独自の「荻津ネット」を介したeラーニングなどのICT技術の活用やアクティブラーニングの技法を取り入れた能動的学習法の開発により、当専攻の多くの成績不振学生を国家試験合格に導いて頂きました。同時に当専攻の教員にはデータに基づく教育法や荻津式グループワーク法など数々の教育手法を伝授して頂きました。さらにはIR専属教員として全学的にもご活躍されました。荻津先生に教授頂いた教育手法を活用して、本学学生が積極的に生き生きと学べる様に今後もさらなる教育改革を進めていきたいと思ひます。

ピンクリボン活動部が「みえまちキャンパス」にて優秀賞を受賞

ピンクリボン活動部 顧問・放射線技術科学科 准教授 北岡 ひとみ

2月19日(土)に高等教育コンソーシアムみえ主催の「令和3年度 学生×地域の活動発表会 みえまちキャンパス@ 四日市看護医療大学」にてピンクリボン活動部の学生がこれまでの活動を発表しました。今回は、オンラインにて11団体の発表があり、その中で優秀賞をいただくことができました。大変名誉なことであり、今までの活動、発表を行った学生にとって非常に貴重な経験になったと思ひます。以下、学生の感想です。

- これまでピンクリボン活動部で行ってきた活動を報告しました。これからも三重県に貢献できるように、そして乳がん検診の大切さを伝えるためにピンクリボン活動を続けていきたいと思ひます。【4年 稲場新菜（部長）】
- 大勢の前で活動報告をするのはとても緊張しましたが、結果として優秀賞を頂くことができとても嬉しかったです。他に参加していた方々の活動報告を聞いて初めて知ったこともたくさんあり、有意義な時間を過ごすことができました。【4年 井上陽香】
- 今回の発表を通して、私達が活動している内容について知ってもらえただけでなく、他の参加者の方に乳がん検診の大切さについても伝えることができたと思ひます。【4年 井本成美】
- コロナ禍でなかなかピンクリボンの活動ができない中、今回の報告会では貴重な体験をさせていただくことができました。ピンクリボンの活動について少しでも知ってもらえたことができたと思ひます。【4年 鈴木奈々花】



令和3年度 実験動物感謝式

動物実験施設運営委員会 委員長・保健衛生学部 医療栄養学科 教授 三浦 俊宏

令和3年度の実験動物感謝式を3月10日(木)に千代崎キャンパス実験動物施設横の動物慰霊碑前にて行いました。新型コロナウイルス感染防止のため、昨年同様に私と研究振興課員の少人数で行いました。

令和3年度に犠牲となった実験動物数は、マウス1393匹、ラット233匹、鶏胚270匹の合計1896匹でした。これは昨年より567匹の増加です。昨年は、コロナの影響で動物実験数が大きく縮小されましたが、本年は増加となりました。このことは、コロナに対応しつつ動物実験を行っていることが示唆されます。また、年間承認件数は、新規5件となっています。

本学では動物愛護の精神に基づき、動物に無用の苦痛を与えないように細心の配慮を行っています。動物実験に関する講習会を必修とし、また実験計画が本学で定めた動物実験指針に適合しているかを厳正に審査しています（動物実験指針および動物実験倫理委員会規程は本学ホームページで公開しています）。

薬学研究科・薬学部の様々な取組について

薬学研究科 第7回課題研究中間成果報告会および第5回学位論文発表会を開催

薬学研究科長 飯田 靖彦

1月26日(水)白子キャンパスにて、薬学研究科の第7回課題研究中間成果報告会および第5回学位論文発表会を行いました。まず午前中に大学院2年生の中川直也さん、藤戸淳夫さん、丸山清子さんの3名が課題研究の中間報告を行い、次いで午後には大学院4年生の中西賢太郎さんが博士論文研究を発表しました。

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症により研究活動が制限され、特に2年生は入学以来この感染症による規制が続く中で、本薬学研究科に相応しい先進的な研究成果が発表され、活発な討論となりました。

午前中の中間成果報告会では、中川さんが「亜鉛による免疫制御機構の解明」について、藤戸さんが「5-Fluorouracil投与による色素沈着発現メカニズムに関する研究」について、丸山さんが「非ステロイド性抗炎症薬投与による皮膚生理機能への影響に関する研究」について報告しました。中川さんは詳細なデータを基にした基礎的な研究内容となっており、一方で藤戸さん、丸山さんは社会人院生として臨床での知見を起点とした実践的な研究内容で、いずれも薬学の発展に寄与する興味深い研究となっています。午後の学位論文発表会では、中西さんが「がん治療における組織内活性酸素種に対するビタミンCの効果に関する研究」の論文題目で発表を行いました。高用量ビタミンCの臨床効果についてマウスを使って基礎的に検証し、さらにその臨床的有用性を示唆する素晴らしい内容で、今後の発展に期待が持てる研究であり、本学の学位を取得するに足る発表会となりました。



本年度の課題研究中間成果報告会及び学位論文発表会は、いずれも社会に貢献する研究内容であり、今後もこのような質の高い基礎、臨床研究を発信するとともに有能な人事の育成に努めていきます。

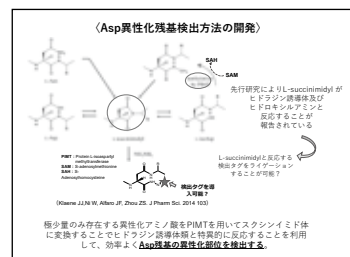
第6回薬学セミナーを開催

薬学部 薬学科 教授 米田 誠治

2月10日(木)に開催した第6回薬学セミナーでは、森本正大 助教(題:ケミカルバイオロジー手法を用いた新規ケミカルプロテオミクス手法の開拓)、および福田八寿絵 教授(題:テーラーメイドリスクコミュニケーション)に講演いただきました。

森本先生には、主に光化学を用いたケミカルプロテオミクス手法について発表いただきました。この手法を用いることによって、生体や細胞に投与された薬物の標的タンパクを、非常に効率よく特定することが出来るようです。福田先生は、近年、リスク情報の伝わり方が個人の属性やリテラシー(情報の読み解き・認識能力)によってどのように異なるのかを、アンケート調査を基に解析されています。今回は、医薬品の適正使用を題材に、「医療従事者が発するメッセージと患者の行動との関連」や、「患者の視覚に訴えるピクトグラムの有効性」を統計的に評価し、その結果を発表してくださいました。

両先生ともに、難しい研究を非常に分かりやすく説明してくださったので、参加された学生さんも研究を身近に感じられたのではないのでしょうか？



薬学部オリジナルの入学前教育の実施

薬学部 薬学科 准教授 石嶋 康史

近年、国公立を問わず全国の薬学部について、入学者に対する標準修業年限内の卒業率や国家試験合格者の割合、いわゆる「ストレート卒業率」や「ストレート合格率」が文部科学省から公表されています。本学薬学部では、教育の質を向上し、入学した学生にストレートで薬剤師免許を取得してもらえるように教員一丸となって種々の対策に取り組んでいます。その一環として、薬学教育センターでは総合型選抜や学校推薦型選抜の合格者を対象として薬学部オリジナルの入学前教育を開始しました。大学の授業に不安を感じる新生もいると思いますので、少しでも早く大学での勉強に慣れてもらえるように、高校と大学の橋渡しとして薬学の基礎となる物理・化学・生物についてeラーニングシステム(ESSシステム)を利用した問題演習と薬学教育センター教員による解説講義の動画配信を行いました。2月下旬から3月末まで2週間を1タームとして計3ターム実施し、終了後には問題演習の成績と教員からのコメントを各受講生に配付しました。



薬学教育センター自習スペース

今回は初めての試みになりましたが、受講生のアンケート結果などを参考にして、来年度以降、一般選抜合格者への対象拡大やスクーリングの導入などを検討し、新生の皆さんが入学後にスムーズに大学の学習に接続できるように改善していきたいと思っています。このような取り組みを薬学部への進学希望者にもアピールしていきたいと考えています。

「ブンナビ薬学特別講座」を開催

2月21日(月)、薬学部生を対象として文化放送キャリアパートナーズによる『ブンナビ薬学特別講座』ライブ配信講座を開講しました。

第一部では、日本製薬工業協会専務理事(薬剤師) 森和彦先生を特別ゲストに迎え「これからの薬剤師が進む道とは」と題し、竹内靖夫アナウンサーと対談が行われました。製薬企業、病院、調剤薬局、ドラッグストアといった医療業界の現状と近未来や、これからの薬剤師が活躍する新しいステージについてもお話いただきました。

第二部では、現役薬剤師によるトークセッションが行われました。本学を卒業された先輩薬剤師の先生方にもご登壇いただき、それぞれの業界での働き方や就職活動・国家試験対策など学生時代についても伺うことができました。

期間限定ではありますが、今回の講座をアーカイブ配信していますので、薬学生の皆さん、保護者様並びに薬剤師を目指そうと考えている高校生の皆さんも、ぜひご視聴ください。

■ 配信期間：2022年3月19日(土)～5月22日(日)

■ 視聴掲載先：<https://sv109.wadax.ne.jp/~radio-bunnabi-jp/corp/suzuka/>

＜白子学生・就職課＞

毒物劇物、危険物の管理状況を視察巡回

毒物劇物、危険物質管理委員会

保健衛生学部医療栄養学科 教授 若林 成知

薬学部薬学科 教授 岩島 誠

大学では教育研究に多種多様の化学物質が使用されており、中には毒物劇物や消防法危険物など法的管理が必要なものがあります。消毒用エタノールもその一つです。取扱いを誤ると大きな被害を発生しかねないものです。本学では毒物劇物、危険物質、廃棄物の3管理委員会のもとで、関連法令や学内規程を徹底し、危険有害性の高い化学物質の年間使用量・保有量を調査し、また取扱い現場を視察し学内の状況把握に務めるとともに、必要な指導や関係官庁への対応を行っています。幸い目立った事故災害は発生していません。



視察の様子

2021年度は、3月1日(火)～10日(木)のうちの4日間、千代崎および白子キャンパスの当該物質を取扱う実験室等を、豊田学長にご同行いただき視察巡回しました。7年目を迎えたこともあり、多くの実験室でその保管状況は満足できるものでしたが、一部の実験室では例年の指摘もさせていただきました。実験室の安全を維持することは、継続的な教育研究の土台作りにつながり、また安全の素養を身に付けた学生を社会に輩出する上においても大切です。今後とも薬品の安全管理の徹底にご協力いただきますようお願い申し上げます。

放射線技術科学科実習室のX線CT装置の更新について

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 松浦 佳苗

千代崎キャンパス実習棟2階にある放射線技術科学科の実習室には、診療放射線技師の主要業務である画像検査を学ぶために、臨床施設で使用されている検査装置が設置されています。放射線技術科学科の学生はこれらの装置を実際に操作し学ぶことにより、診療放射線技師としての必要な知識や技術を臨床現場さながらの環境にて学ぶことができます。

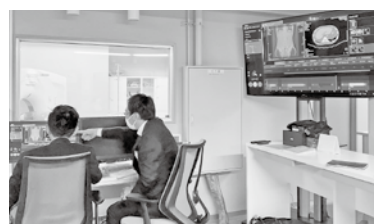
X線CT検査では近年、装置の発展にともなった新しい技術の開発や導入が目覚ましく、学生は多くの新しい知識・技術を学ぶ必要が出てきています。このような背景から、2022年3月に本学科実習室内のX線CT装置を更新していただきました。

新装置(SOMATON go.Top: SIEMENS)では、従来からの撮影手法に加え、逐次近似再構成や金属アーチファクト低減処理、Low-kVやDual energy撮影技術など、様々な新しい技術を学ぶことができます。また、操作室のレイアウトは、操作画面や撮影画像などを大型モニタに出力したり、撮影室内での実習の様子が操作室側からリアルタイムで観察できるなど、ICTの技術を利用した工夫がされており、複数人のグループで実習を行う際にも、それぞれの学生が学びやすい環境となりました。

放射線検査領域の技術は日々発展しており、学生が学ぶ内容も増えてきています。技術の進歩に合わせた学生教育に、X線CT装置をフルに活用し、社会に求められる診療放射線技師の育成を目指していきたくと考えています。



実習室内に新しく設置されたX線CT装置



新装置の操作・取扱説明を受けている様子。本学科第8期卒業生の古本洋一さんがCTアプリケーションスペシャリストとして装置説明を担当してくれました。

2021年度日本ソーシャルワーク教育連盟 東海・北陸ブロック教員研修会を終えて

保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻長 藤原 芳朗

2月21日(月)、今年度の地区当番校として医療福祉学科 医療福祉学専攻の教員が中心となり、教員研修会をオンラインにて2部構成で開催しました。

1部では、北九州市立大学 地域創生学群の教授 佐藤貴之先生より、「ICTを活用した実習・演習教育ーさらなる教育の質の向上を目指してー」と題する講演をしていただきました。内容の概略は大きく分けて2つのことをお話しいただきました。一つ目は、ICT(情報通信技術)を活用した教育のメリット・デメリットについて、二つ目は、教育工学・学習科学の視点からの授業デザインーそもそもよい授業とは何かーでした。

新型コロナウイルスの終息の目途が立たない折、また、4月から学外実習を含めたカリキュラム改正の具体的な展開が新たに開始される時期を前に、非常にタイムリーなテーマ・内容でご講演をいただきました。とりわけ、オンライン教育の限界、学生個々のやる気の引き出し方、教育工学の中身としてのガニエの9教授事象、ケラーのARCSモデル、ルーブリックを用いた評価など興味深い内容となりました。

2部では、参加者を6グループに分け、1部の講演内容について、新カリキュラムによるソーシャルワーク教育の展開をしていく上での現状や課題について各参加者からの発言を聞きながら、情報交換・共有をすることができました。

三重県公認心理師会について

保健衛生学部 医療福祉学科 教授 渡部 千世子

2021年4月に一般社団法人三重県公認心理師会が発足し、三重県内の公認心理師530名のうち85名が入会されました。公認心理師は心理専門職の国家資格で、本学は三重県で唯一、大学・大学院が養成校の認可を受けています。本学からは、副会長(渡部)、理事(綾野准教授)、事務局窓口(平谷助手)の3名が三重県公認心理師会の運営に携わっています。今年度は10月に設立記念講演会、2月に研修会を開催しました。いずれも本学から発信するオンライン開催となり、会場の提供はもとより河尻助教(看護学部)、加藤企画広報課員にテクニカルスタッフとしてご協力いただくなど本学の全面的なバックアップによって無事開催することができました。設立記念講演会は、諏訪赤十字病院の森光玲雄先生(公認心理師)による「ピンチの時に手を差し伸べられる社会を目指して～コロナでも使える心理的支援のコツ～」というテーマでご講演いただきました。研修会は「一緒に考えよう!三重県の支援を求める方のニーズに応える公認心理師になるために」というテーマで、医療・保健、福祉、教育、司法犯罪、産業・労働の分野で活躍する公認心理師の発表と分野ごとの分科会を行いました。三重県公認心理師会には既に行政からの協力依頼が数多く寄せられており、このような職域団体に本学教員が積極的に関与することは地域貢献に役立ただけでなく、卒業生の就職等にも寄与できると考えております。引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます。



<臨床心理学専攻>

三重ホンダヒートの練習試合を見学しました

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 准教授 本田 達朗

三重ホンダヒート(以下、ヒート)と鍼灸サイエンス学科による共同企画であるトレーナーインターンシップ制度は開始から3年目を迎えます。しかしながらこの2年間は新型コロナウイルスの蔓延によりインターンの休止と再開が2度ありました。今回、久しぶりにヒートの練習試合を学生と共に見学する機会がありましたので、そのことについて報告したいと思います。

感染者数が減少しインターンが再開していた2021年12月18日(土)にヒートの協力を得て「三重ホンダヒート」対「豊田自動織機シャトルズ」の練習試合を見学しました。当日は学科の教員2名が引率し、学生は1年生4名、2年生6名の10名が参加しました。見学の目的はメディカルトレーナーが試合の前、中、後にどのような働きをしているかを見て学ぶことでした。

前日に積もるほどの雪が降りましたが、インターン学生によると早朝よりヒートの選手、スタッフが総動員で雪かきをしたそうです。我々がグラウンドに到着した際にはグラウンドには全く雪が無い状態で多少ぬかるみがあったと思いますが選手は熱いプレーをしていました。

グラウンドには選手やスタッフと一緒にインターン学生の姿もあり、見学した後輩たちは「次はあの場所にいたい」という気持ちになったかもしれません。

試合は善戦むなしく惜敗という結果となりました。今後の三重ホンダヒートの活躍に期待したいと思います。

成人看護学における教材作成の動画撮影について

客員教授・前 看護学部長 大西 和子

3月14日(月)～17日(木)の4日間、成人・精神看護実習室において出版社(学研メディカル秀潤社)により、成人看護学教材の動画撮影を行いました。これは、すでに教材として「事例で学ぶ看護過程」の著書がありますので、その事例をもとに改変し、事例の一場面を動画にすることにより、学生にとって紙面上だけの理解より解りやすくするために、QRコード付きの動画を加えることになりました。

この4日間、成人看護学の教員を主として、他領域の教員、学生、事務職員、出版社職員などで、患者、家族、看護師、医師、他職種などの配役を演じました。最初は緊張していましたが、すぐに慣れ、和やかな雰囲気の中で順調に撮影を終えることができました。思いのほか、皆さんは役になりきって俳優さながらに演じているのを傍らで微笑ましく見ていました。



患者家族への説明場面



外来診察場面

臨地実習前の学内演習での教材として、デジタル化を活用・工夫することにより、学生教育に役立てることができると考えます。特に、看護実践においては患者・家族、他職種などとの信頼関係、協調性を大切に、専門職として問題解決型思考でのコミュニケーションが求められています。動画を通して学び、その後ディスカッションすることにより、他者の意見を聞き、自己の意見や考えを深め、他者への配慮を学習する機会になります。このように看護学生には有効な学習の一つであると考えます。ここに撮影中の2場面の写真を提示します。

「医用情報工学科」の卒業論文発表会と学位記授与

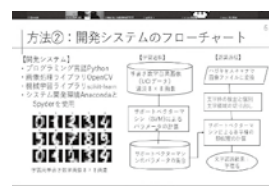
医用工学部 医療健康データサイエンス学科長 鶴岡 信治

医用情報工学科では、卒業論文の発表会を新型コロナウイルスの感染防止のために、昨年度に引き続き、オンラインで2月21日(月)に開催しました。発表は1人10分のプレゼンテーションに5分の質疑応答で、9:30から17:50まで行いました。また事前に卒業論文の要旨をSUMS-POに公開し、1年生から4年生までの全員に、卒業論文の要旨を事前に読んでから視聴することを勧めました。

発表会当日の質疑応答は、学生から先に質問を促すようにし、その後、教員からの質問を受けることにしました。そのため、下級生から研究に関する素朴な質問や内容の核心を突くような質問が出て、発表者が戸惑う場面もありましたが、下級生に対しても今後の学習に関して、良い刺激を与えることができました。また優秀発表賞は、全学生と教員の投票結果により決めました。

また、3月11日(金)に行った学科の学位記授与では、学科長と各教員からの祝辞、記念写真撮影、学位記授与などと共に、卒業研究の優秀発表賞の受賞者を発表し、賞状と記念品を渡しました。

今年度の卒業生は、新型コロナの感染症拡大のために、従来とは異なる遠隔授業と卒業研究を体験し、情報通信技術の重要性について感受性が高い学生時代に体験した学生です。このような経験をバネに、新しいAI・データ時代を切り開き、情報化社会のリーダーに育っていくことを祈念し、学位授与式を終えました。



卒業研究で開発したシステム



学科長からの学位記の授与

コロナ禍での大学生活を終えて

医用工学部 臨床工学科 14期卒業生 仲森 陽菜

新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから約2年が経ちます。私達は3年生の前期からZOOMを活用したオンライン授業が始まり、学内実習では感染対策として少人数で実施され、今までに経験をしたことのない環境での大学生活に戸惑いながら過ごしていました。また4年生では、臨床実習、就職活動、卒業研究、国家試験などにも新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制限がありました。



春から臨床工学科士として活躍する仲森さん(左端)

なかでも臨床実習は、今後臨床工学技士として働くための大きな通過点であると考えてきました。臨床実習病院は、新型コロナウイルス感染症の流行で大変な中でも私達臨床実習学生を受け入れて頂き、多くのことを指導頂きました。患者さんを中心とした「患者ファースト」の医療、患者さんとの信頼関係の大切さ、患者さんや他職種の方と関わるためのコミュニケーション能力、チーム医療の重要性を改めて感じ勉強になりました。

大学4年生は、自分自身の将来の大きな決断をする年とも言えると思います。私は臨床実習でお世話になった病院から内定を頂き、4月から働かせて頂くことになりました。臨床工学技士としての知識や技術を十分に身につけ、患者さんからも他職種の医療従事者の方からも信頼される臨床工学技士を目指し取り組んでいきたいです。

コロナ禍における臨地・校外実習を終えて

前 保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 江口 澄子

毎年2月中旬になると、3年生の福祉施設と医療施設の臨地・校外実習が始まります。福祉施設は1単位45時間、医療施設は2単位90時間の履修が必修です。

昨年度より新型コロナウイルス蔓延防止対策のため、施設で実習ができない場合は代替えとして学内実習が認められることになりました。今回も福祉施設の実習は9施設のうち、実習できたのは1施設のみ。6施設は学内実習、2施設は直前の断りであったため、学生を振り分け、実習なしの施設となりました。

学内実習学生数は46名中42名となり、2月14日(月)～18日(金)の5日間で行いましたが、昨年より多くなってしまいました。内容として、遠隔で講義をしてくれたのは3施設、指導の先生が本学に出向いてくれたのが3施設でした。毎講義にレポートを課し、まとめる技術を高めるようにしました。

施設の先生の意向を汲んで、カリキュラムを組み立てます。6施設が同時進行しているわけですから、各々に部屋を確保し、教員についてもらう必要があります。堀田先生、大杉先生、中東先生、若杉先生、助手の先生方7人に協力依頼をし、中には再試や講義の合間をぬって担当いただき、大変な1週間となりました。

カリキュラム的には、高度な内容で終えたと自負していますが、やはり、現場での緊張した雰囲気を味わい、座学との差を見極められなかったことは、社会人となった時の事を考えると心配です。今回は新型コロナも終息し、通常の実習になることを願ってやみません。

＜管理栄養学専攻＞

初期臨床実習で学んだこと

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻3年 西村 一真

2月28日(月)から3月5日(土)に、三重県済生会明和病院へ初期臨床実習に行かせていただきました。済生会明和病院は主に脳血管障害、運動器疾患、廃用性症候群といった疾患を対象とした回復期リハビリテーションの施設です。今まで患者として見てきた理学療法士の先生方の訓練を間近で見学させていただき、改めて理学療法士の良さを実感しました。

訓練を行ううえで、患者様との信頼関係を築くためには、患者様の気持ちを考えていくことが大切だと学びました。患者様が「したいこと」と「したくないこと」、「できること」と「できないこと」を理解することが、リハビリテーションを行ううえで重要だと思いました。また、患者様の中には、不安や恐怖心を抱えている方もいらっしゃいました。臨床の先生方は患者様とのコミュニケーションを取る中で、治療に関する説明や指示だけではなく、患者様の趣味や好きなことの会話をし、ストレスを和らげていました。なかには笑顔で病室に帰られる患者様もあり、臨床の先生方のような患者様を身体機能だけではなく、心理面も良くできる様な理学療法士になりたいと思いました。

今回の初期臨床実習を通して、自分の知識不足を実感しました。今まで習ってきたことの復習をするときやこれから学ぶことを、見学させていただいた事と照らし合わせて、学習を進めていきたいと思います。立派な理学療法士になれるように、これからも努力を惜しまずに頑張ります。

初めての作業療法現場見学

保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻3年 山下 優亜・米山 亜希

2月24日(木)から3月2日(水)にかけて、作業療法学専攻2年生46名が臨床実習に行ってきました。今回は、初めての臨床実習ということで、臨床現場の見学を中心とした、作業療法士の働く場所を知ること、作業療法業務の流れや役割を知ingことを目的としたものでした。

私たちは、三重県内の複合型施設群を見学し、デイケアセンター、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、訪問リハビリテーションなど様々な場所での作業療法士の取り組みを見せて頂きました。施設の先生方からは、身体機能の回復が困難な方でも、介助量を増やさないようにするために、リハビリテーションを実施する必要があることを学びました。また、リハビリテーションを実施するために起き上がりを介助する際、自分たちのように小柄な療法士は、1人で実施するために工夫する必要があることを教わりました。実習中は、施設を利用されている方とも話をする機会を頂き、難聴の方とコミュニケーションを取るポイントや日常会話や仕草の観察から情報を得るということを知りました。さらに、難聴の方は会話に参加しにくく、それが疎外感や認知機能の低下に繋がりがやすいのでコミュニケーションを取ることが重要であることを教わりました。

今回の実習を通して、作業療法士として働くために必要な能力を知ることができました。次の9月からの臨床実習に向けて、それらのスキルを磨くことと3年前期の授業に頑張っ取り組んでいきたいです。

新任教職員のご紹介



学長付 特任教授 奥村 克純

本年4月、学長付特任教授として着任しました。3月まで三重大学大学院生物資源学研究科長・学部長として管理運営を、分子細胞生物学研究室教授として人財育成・基礎教育及び「動物細胞ゲノムの構造と機能」や「食品成分の機能性」等の研究を行ってきました。経験をもとに、本学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう教育・研究・社会貢献・管理運営すべての面で尽くす所存です。よろしくお願いします。



学長付 特任教授 永坂 哲

この度SUMSの国際交流発展に尽力すべく学長付特任教授として着任致しました。SUMSの皆様と協働しながら、これまでの私の留学体験、企業人としての海外勤務、歯科矯正医としての医療従事、大学教員としての教育・研究、大学の国際交流センター長としての運営、難民の無償歯科医療支援を通じた社会貢献等の諸経験を、少しでもSUMS発展のために生かせればと願っております。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 放射線技術科学科 特任教授 竹島 賢治

本年4月より保健衛生学部放射線技術科学科特任教授に着任いたしました。これまでは岐阜県の大垣市民病院医療技術部診療検査科の科長として、co-medicalの一員である診療放射線技師の業務、管理、教育などに携わって参りました。今後はこれまでの経験を活かし、皆様に診療放射線技師の現場・実際をお伝えし、学生の教育に尽力していききたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 永澤 直樹

2022年4月より保健衛生学部放射線技術科学科に着任いたしました。これまで三重大学医学部附属病院でCT検査を中心に勤務してきました。診療放射線技師としての知識や経験を活かし、学生さんが自信を持って社会へ巣立てるよう、「誰ひとり取り残さない」を目標に教育・研究・社会貢献に努めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 松 廣 幹 雄

4月より放射線技術科学科に着任しました。昨年度まで徳島大学の社会産業理工学研究部に勤務し、胸部CT画像の自動構造解析法や、AIを用いた病変検出法の研究に携わってまいりました。本学では医用工学に関する講義を担当させていただきます。わかりやすく質問しやすい講義を心掛けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 医療栄養学科 特任准教授 印 南 京 子

本年4月から医療栄養学科管理栄養学専攻に着任いたしました。臨床栄養学を担当させていただきます。大学教育は初めてですが、これまで県職員として保健所や病院に勤務した経験を学生に還元できるよう、また新たな知識・技術を修得した、社会に求められる管理栄養士の養成に努めていきたいと思っています。不慣れではありますが、どうかよろしくご指導いただきますようお願いいたします。



保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 福岡 恵子

本年4月より医療栄養学科に着任いたしました。担当は画像生理検査学です。着任前は長きに渡り、大学病院の生理検査室で臨床検査と学生実習を担当してきました。検査の分野では最も患者と接する時間が長い分野ですので臨床実践につながる情報を盛り込みながら画像診断学の魅力を伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 吉村 智春

本年4月より医療栄養学科管理栄養学専攻に着任いたしました。病院・介護老人保健施設の勤務を経て、昨年度まで大阪府や岡山県の大学で勤務しておりました。主に給食経営管理論を担当いたします。食を通して人を幸せにできる管理栄養士の育成を心掛けております。これまでの経験を活かし、学生教育・研究・社会貢献に務めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 近藤 年 隆

本年4月より保健衛生学部医療福祉学科に着任いたしました。また附属である桜の森病院、こころのクリニックでも医師として働かせていただいております。これまでは精神科医として臨床業務を中心に働いており、教育などの面では至らない部分が多くあるとは思いますが少しでも皆さんの力になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 救急救命学科 特任教授 東 川 正 宗

私は、昭和57年に三重大学医学部を卒業し、尾鷲総合病院、国立名古屋病院、国立鈴鹿病院などの関連病院で研修後、三重大学から平成12年に伊勢赤十字病院へ赴任しました。平成27年から副院長、29年から感染症対策室長を兼務し、今回の新型コロナウイルス感染症では対策委員長として対応いたしました。専門領域は小児科学、血液学、感染症学です。これまでの経験をいかし本学に貢献できるように頑張る所存です。よろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 救急救命学科 特任教授 丸 山 一 男

本年4月より保健衛生学部救急救命学科に着任しました。これまで、非常勤講師または三重大学との合同科目として、臨床工学特別講義（人工呼吸）、麻酔科、救急医学、慢性疼痛で学ぶチーム医療（基礎）（実践）を通じて、本学が多職種連携教育に参加してきました。今後もメディカルスタッフの育成とチーム医療の発展を目指して、皆様と共に学んでいきたいと願っております。



保健衛生学部 救急救命学科 准教授 久保田 千 景

保健衛生学部救急救命学科に准教授として着任いたしました。これまで看護師として様々な領域で経験したことを活かし、救急救命学を学ぶ学生さんに対して看護学の視点から、また家族支援専門看護師の立場から学びの支援を行いたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 救急救命学科 助教 犬 塚 渡

本年度より保健衛生学部救急救命学科の教員として着任いたしました。昨年まで看護師として臨床で経験を積みました。2022年10月に救急救命士法の改正があり、今後病院内でも救急救命処置が可能となります。私は救急救命士の資格を取得しております。両資格を活かして病院内、病院外双方の視点からみた救急救命士に必要な知識、技術を学生に伝えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



保健衛生学部 救急救命学科 助教 宮 崎 伊 佐 夫

本年4月より救急救命学科の教員に着任しました。これまでは消防機関において消防救急業務を行い、火災・救急・救助などの災害に対応するとともに、指導医師の監修を受けて救急救命士の指導・教育にも携わってきました。これまでに培った経験を活かし、高い使命感と行動力を備えた救急救命士の育成に尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



医用工学部 医療健康データサイエンス学科 教授 中 井 桂 司

本年4月に着任いたしました。市内の村瀬病院で内科医として勤務しながら、本学の非常勤講師として、病理学や内科学の講義を担当させていただいておりましたが、三重大学病院の医療情報部や医学・看護学教育センターでの経験をもとに、医療専門職をめざす、本学の学生のみなさんの能動的学習を促進する効果的な教育アプローチを開発実践したい、と、考えております。また、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



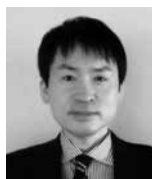
薬学部 薬学科 助教 伊 藤 佳 祐

本年度より薬学部 薬学科 衛生化学分野の助教として着任いたしました。東京理科大学大学院 薬学研究科博士課程を修了した3月までは、血管内皮細胞に対する重金属の毒性発現機構についての研究を行っていました。6年制薬学部卒業生の一人として少しでも学生の皆様のお役に立てるように努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



薬学部 薬学科 助手 柏 木 翔 和

令和4年4月より本学薬学部薬学科助手として着任いたしました。昨年度は立命館大学薬学部の1～3年次を対象とした様々な実習指導に携わり、所属研究室では天然物化学領域の研究を行っていました。本学では、薬剤師としての経験なども含めた広い視点から教育に取り組み、次代を担う薬剤師の輩出に貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 看護学科 教授 佐々木 良 元

本年4月より看護学部看護学科に着任いたしました。これまで脳神経内科医師として診療・研究・教育に携わってきました。臨床医としての経験を活かし、医療現場を身近に感じることができる教育を心がけ、医療・福祉専門職の育成に貢献していきます。また、本学附属桜の森病院で非常勤として勤務しますので、診療面でも貢献できるように尽力いたします。



看護学部 看護学科 教授 辻 川 真 弓

4月より看護学部看護学科成人看護学教授に着任いたしました。3月までは三重大学の看護学専攻で学部教育、大学院教育（博士前期・後期）に携わっていました。本学新入生と話す中で、本学がより地域に根ざした大学であることを実感したことから、教育・研究を通じて地域の医療・看護をより良くしていきたいと考えています。私自身も鈴鹿市民ですので、頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 看護学科 教授 萩 典子

本年4月より看護学部看護学科に着任いたしました。担当は精神看護学です。これまでも看護系大学で看護教育に携わっていました。研究では若年無業者のメンタルヘルスとそれに関連する要因を明らかにし、精神健康を高める教育プログラムの開発と実践を行っています。今後も地域や職域でメンタルヘルスを維持増進できる取り組みを行っていききたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 看護学科 助教 山 下 道 世

本年4月より看護学部看護学科に着任いたしました。担当は英語です。数年前まで本学の非常勤講師をさせていただいておりました。この度再びこのような貴重な機会をいただき、深く感謝いたします。至らぬ点が多々あるかと存じますが、少しでも学生さんのお役に立てるよう日々精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護学部 看護学科 助手 朝比奈 佳 恵

本年4月より看護学部看護学科の助手に着任いたしました。担当は老年看護学です。これまで本学の実習指導員として携わってきました。臨床で、国立長寿医療研究センターの認知症病棟で勤務していた経験があるので、その経験を活かして、老年看護学では、認知症の患者さんがその人らしく生活を送るためにどのような関わりが必要か、学生とともに考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 看護学科 助手 鈴 木 愛 理

本年4月より看護学部看護学科の助手として着任しました。担当は精神看護です。昨年まで大学病院の精神科病棟で4年間勤務しました。看護師としての臨床経験を活かして学生の皆さんに精神看護の魅力をお伝えしていきたいと思っています。少しでも皆様のお力になれるよう一生懸命努めてまいります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



「パスタはケチっちゃダメだよ」

おじさんは、時々スパゲッティを食べに行く。先日お店に行った時は「春キャベツとアンチョビのスパゲッティ」を食べた。季節感あって旨^{うま}かったな～。隣のテーブルの人は「ナポリタン」を食べていた。ナポリタンって、おじさんは滅多に食べないけど、洋食屋や喫茶店、レストランの定番のパスタ料理になってるよね。ナポリタンなんて言うと、本場イタリアのナポリの名物だと思う人がいるかも知れないけど、ナポリにナポリタンは無いというから、おじさんもビックリ。

「ナポリタン」は、日本発祥のスパゲッティ料理なんだと言う。昭和20年代に横浜のホテルか洋食屋さんが考案したというのが定説らしいが、原型はイタリアではなく、アメリカのミートボールスパゲッティなんだとか。このミートボールスパゲッティの味を参考にアメリカ陸軍が軍用食としてスパゲッティのケチャップ煮の缶詰が作られ、この影響もあって、ぶよぶよ麺でケチャップ味のナポリタンが出来上がったんだとか。このナポリタンが名古屋に上陸し、熱した鉄板に載せたり薄焼き玉子を敷いたりとさらに改良されたらしい。板に載せるから、これがホントの板^{いた}リアン？・・・まさかダジャレでやったんじゃないだろうな～

ナポリタンって、量が多いんじゃないかっていつも思っていたんだけど、ぶよぶよ感を出すために、茹で

時間を長くしたり、茹で上げた後冷蔵庫に寝かせたりして、麺が太くなってるからだと考えれば合点がいく。要するに、チョットふやかしてあるんだね。

ところで、ナポリタンが本場に無いことには驚いたけど、もっと驚いたのは、イタリア人のアンケート調査なんだ。なんと89%のイタリア人がパスタにケチャップをかけることは容認できないと答えたというんだ。イタリア人にとっては、「ナポリタンなんて邪道^{じょうどう}で、食べられたもんじゃない」と言うことらしい。

日本人は、小さい時から学校給食やレストランで、スパゲッティにケチャップを絡めたものを食べてるから、こっちのほうが正統派のように思っている人が結構多いんじゃないの。もちろん、イタリアにもトマトを使ったパスタはあるけど、それはケチャップじゃなくて、本物のトマトやトマトピューレを使った手作りソースを絡めたものなんだとか。そんなこと今頃言われても、おじさんトマトっちゃうよな。

イタリア人は新鮮なトマトをパスタに使うので、トマトケチャップだとジャンクフードのように感じちゃうのかもね。イタリア人曰く、『やっぱり、パスタには本物のトマトだね。「安くて早い」なんて、ケチっちゃダメだよ」いやいや、『ケチャップダメだよ』かな。

「医療人底力実践展開」を受講し、多職種連携を体験しました

医用工学部 臨床工学科 4年 大坪 瑠伊

多職種連携を目的とした「医療人底力実践展開」の授業を3月22、24、25日の3日間受講しました。模擬患者カンファレンスのシナリオが透析であることから、臨床工学科で学んだことを実践できる機会と捉え、履修しました。初日はガイダンス、アイスブレイク、学科別ワーク、学科混合チームによるICFモデルの作成、2日目はカンファレンスに向けたケアプランの作成、3日目は模擬患者さんを変えたカンファレンスを行いました。

遠隔講義のため、他学科との関わり方に不安がありましたが、それはいい意味で裏切られ、チーム全員がカンファレンスに向けて積極的に意見交換し、最善のケアについて考えることができました。カンファレンスを通して、患者さんに対する一方的な説明は効果的でないことやコミュニケーションの潤滑剤としての相槌の大切さを学びました。また、専門職を一人でも欠いてしまうと、当該分野からの情報や意見が不足しがちでフォローが難しく、多職種連携なくしてカンファレンスは成り立たないと実感しました。

本講義は学生主導で進むため、コミュニケーションと主体性を習得できる有意義なものでした。ここで学んだことを「医療人底力実践応用」や「臨床実習」に活かしていきたいと思います。



オンラインで模擬患者を変えたカンファレンスを体験

■ 医療人底力実践展開 講義紹介

～メディア取材を受けました！～

医療人底力実践展開 担当・医用工学部 臨床工学科 助教 川合 真子

本講義は全学科3年生対象の選択科目で、多職種からなる学科混合チームによって模擬患者に合わせたケアプランを立案するワークショップとなっており、2021年度は8学科5専攻 計77名の学生が履修しました。今回は完全遠隔の授業となりましたが、メディア（三重テレビ放送、CNS・CTYケーブルテレビ、伊勢新聞）の取材もあり、本学における多職種連携教育への取り組みを広く学外へ発信しました。今年度から「事例で学ぶ多職種連携」へと名称変更し、2023年3月下旬に開講予定です。多くの学生に参加いただけるよう担当教員一同鋭意準備を進めていきます。

行事予定

2022年5月～8月

5月2日（月） 4月29日分振替休日
6日（金） 創立記念日
14日（土）・28日（土） 補講日
6月4日（土）・11日（土） 補講日
18日（土） 夏の第1回オープンキャンパス
7月2日（土） 補講日
9日（土） 夏の第2回オープンキャンパス
16日（土） 補講日

7月18日（月・祝） 月曜授業日
20日（水）～23日（土）・25日（月）～29日（金）
前期定期試験
8月1日（月）～5日（金） 前期・夏期定期試験と解説
7日（日） 夏の第3回オープンキャンパス
8日（月） 夏の第4回オープンキャンパス
9日（火）～17日（水） 夏季一斉休暇
22日（月）～26日（金） 前期・夏期 追・再試験

※上記予定は変更になる場合があります。サマスポおよびホームページで最新情報を確認してください。